

withコロナの暮らしの中で安心して活動をするために、生協ではさまざまな工夫をしています。今回は、コープみらいの取り組みを紹介します。

## コープみらい 感染予防と参加する方の交流の両立を目指して「みらいひろば」を再開

これまで「みらいひろば」\*1は、誰でも気軽に参加できる地域の居場所として毎月開催をしていました。コロナ禍で開催が困難となった中、運営をお手伝いしてくれるエディター(世話人)とオンラインを活用してZoomで話し合ったり、参加されていた皆さんに近況を伺うお手紙を出したりして、今後の「みらいひろば」をどうしていくか考えました。

エディターや参加者の皆さんの声を聞くと、「人と会わなくなってしまったので、またみなさんに会いたいです」「電車に乗るのは不安だけど、近所の会場で開催されたら行きたいです」などの声が寄せられました。

「みらいひろば」の再開に向けて、まずは開催していた会場の定員や換気の状態を確認し、ブロック委員やエディターで「模擬みらいひろば」を開催し、新しい生活様式に沿って開催した場合のシミュレーションを行いました。

広報も工夫しました。これまでは申込不要でしたが、事前申込制で定員を超えた場合は抽選とし、参加前の検温のお願いや体調不良時の参加の見合わせ、会場でのソーシャルディスタンスのことなども事前に案内しました。

これまでのように試食はできませんが、参加者の皆さんの協力で、感染対策を徹底して開催することができました。参加された方からは、「安心して参加できた」「こうしてお話ができ嬉しい」という感想をたくさんいただきました。

地域や会場によってはまだ開催できていない「みらいひろば」も多々ありますが、工夫しながら少しずつ地域の居場所づくりを再開しています。(2020年12月現在)



\*1:組合員でなくても申し込み不要で参加ができる地域に開かれた居場所です。毎月1回2時間程度、都内の地域ごとに店舗の「コープルーム」や「コーププラザ」、公共の施設などで商品や地域の情報交換、暮らしの学びなどで交流しています。  
※2021年1月現在、緊急事態宣言の発出により、「みらいひろば」の開催は中止となっています。



↑手洗いやアルコール消毒を案内したパウチ



↑教室形式でマスクケース作り

### 東京都生協連 フットピックス

### 東京の生協が行う生活困窮者支援に関する取り組みの 総合的なアンケート調査を実施しました

東京都内で生協が行っている生活困窮者への支援を俯瞰的に見て、これからの支援のあり方を考えようと、東京都生協連消費者行政連絡会では会員生協に呼びかけて、生活困窮者への支援活動に関するアンケート調査を行いました。地域生協らしい食に関する支援、生活相談や無料塾への支援、医療生協の地域密着の子ども食堂や居場所づくりなど、どの地域でどの生協が何を行っているのか、全体像を見ることができました。今後、寄せられた課題解決のため、生協間や他団体との学び合い、情報共有、連携を検討していきます。